

第68回卒業式



春らしい、暖かい日差しの中を元気な笑顔で卒業生が登校してきました。



「卒業生入場」の合図とともに、舞台から一人一人胸を張って入場しました。

続いて卒業証書授与では、一人一人中学校での抱負を言ってから卒業証書を堂々と受け取りました。受け取った卒業証書をお母さんやお父さんに感謝の言葉を添えながら渡しました。



『お祝いの言葉、お別れの言葉』では、卒業生が入学式からの小学校生活6年間の思い出、在校生へのバトンタッチ、これまでの感謝の気持ち、そして未来への決意を、



合唱を交えながら伝えました。それに対して、在校生が、お祝いの言葉や合唱で応えました。どちらも、気持ちのこもった言葉や合唱で、感動が広がりました。

式が終了してから、最後の学級活動を行い、慣れ親しんだ教室に別れを告げました。門出は、春の明るい光を浴びながら、在校生が作る花のアーチの中を、保護者、来賓、職員に祝福されながら巣立っていきました。その表情には、中学校でがんばるぞという決意が表れていました。



式 辞

うららかな春の日差しを浴びて、桜のつばみも日ごとに膨らんでまいりました。この晴れやかな日に、十四山東部小学校 第68回卒業生として、巣立っていく二七名のみなさん、ご卒業おめでとうございます。心からお祝いたします。

ご参列のご家族の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。お子様の誕生から今日まで、健康、生活習慣、学習などなど、細かい配慮をされながら、本日を迎えられました。それらの一つ一つを振り返るにつけて、感慨ひとしおのものがおありのことと存じます。重ねてお祝いを申し上げます。おめでとうございます。

さて、卒業生のみなさん、小学校生活をふり返って何を思い出す

でしょう。難しい問題に悩みながら学習した教科。協力して練習に取り組む、やりとげた運動会や学芸会などの行事。「えがお いっぱい」「くふう いっぱい」「ちから いっぱい」の合い言葉で小学校教育六年間がんばりました。そこにいつもあったのが、『明るさ』でした。何に対しても、明るく、元気いっぱい取り組んでいました。この『明るさ』とは、『前向きな姿勢』から発せられているものです。この三年間機会あるごとに伝え続けてきた「失敗を恐れず」ということを実行できたということです。これからも、それぞれの夢に向けて、失敗を恐れず、常に前向きな姿勢で、明るく元気いっぱい進んでいってください。

最後に、みなさんの晴れの門出にあたって、次の言葉をはなむけにします。

それは、『一番の素質は、向上心』というものです。これは、プロ野球で二刀流として有名な大谷翔平選手を高校時代に育てた、花巻高校の佐々木監督の言葉です。大谷選手は、投手として日本人最高の162キロのボールを投げると共に、打者としても三番を打つほどのすばらしい素質を持っています。しかし、高校時代の大谷選手を指導してきた佐々木監督は、「もっと速いボールを投げたい、もっと遠くへ打球を飛ばしたい、と苦しい練習に自分から取り組む向上心が、現在のようなすばらしい選手になれた一番の素質だ」と言ってみえます。

みなさんには、これから新しい生活が待っています。中学校の新しい学習、部活動など、これまでとは違うことばかりです。それらに取り組んでいくとき、この「向上心」があれば、限りなく自分の力を伸ばし、夢に近づくことができます。

みなさんが、十四山東部小学校で学んだことを誇りにして、勇気を持って一歩ずつ前へ進んでいってくれることを期待しています。みなさんの未来に幸多かれと、心から祈りながら式辞といたします。